

日本テコンドー協会（JTA）加盟

新生 愛知県テコンドー連盟

2016年5月31日

日本テコンドー協会

会長 河 明生

一、愛知県テコンドー連盟は、2016年5月21日（土）午後10時より臨時役員会を招集し、会長提議の新しい人事案を可決した。

1. 新役員

愛知県連第3代会長 稲熊 肇（会社員）

事務局長（新任）兼理事（新任） 辻 陽介（会社員）

理事 都築晋一（会社員）

学生幹事長 伊藤岳陽（高校生）



第3代愛知県テコンドー連盟 会長 稲熊 肇 就任挨拶

日本テコンドー協会（以下、JTA）は、愛知県テコンドー連盟の新役員案を了承する。



新生 愛知県テコンドー連盟 宗師範総見

2. 人事の説明 河明生 J T A 会長談要約

- ①愛知県連は前任の責任者が、三度、海外出張（5年）で道場運営を放棄している。
三度起きていることが、四度ないとはいえない。
つまり復帰しても同じことを繰り返すという蓋然性が極めて高い。
- ②この間、愛知県連を支えたのは、上記の理事3名、とりわけ稲熊肇である。
しかも前任者がいた頃よりも、会員数が増加伸している。
前任者を知る会員は、ほとんど退会し、残っていない。
責任を放棄した者が帰国したからといって元の地位に復職させことは難しい。
功労ある者を放棄した者の下位におくことは本末転倒である。
功労ある者は組織の上位に立つ、という組織の規律を守らなければならない。
- ③上記の①、②の理由により、2年も前から稲熊肇に会長就任を要請してきた経緯がある。
3回目の今回、稲熊肇は、ようやく承諾した。

たとえば、子供を生むことは容易だが、産んだだけでは親とは言えない。
親だというのなら親の責任、
すなわち生まれた子供を育てるという責任を果たしていなければならない。
つまり子供を産みながら自分の都合で育児放棄した親は、親ではない、
というのが、世間の価値観、とりわけ捨てられた子供の感情である。

J T A 道場は「子供」である。
創ることは簡単だが、持続するのが難しい。
その責任を立派に果たしている者こそ、会長職に就任すべきである。
「新しい酒は新しい器にいれるべきだ」とする格言があるように、
新生 愛知県テコンドー連盟の会長は、「新しい器」・「育ての親」＝稲熊肇がふさわしい。

三、新生 愛知県テコンドー連盟の組織運営

- 1, 愛知県テコンドー連盟は、民主的な組織にならなければならない。
- 2, 重要事項は、定例会議にはかり、合議制とする。
合議制とは、会長1名、理事2名で賛否を問い会の運営方針を決めることをいう。
なお、今後、就任する顧問、評議員、学生幹事長に投票権はない。
- 3, 重要事項でない場合、会長と事務局長の合意により決めるものとする。
- 4, 上記2は満場一致が望ましい。
1名でも反対意見がある場合、J T A本部に仲裁を依頼するものとする。
J T A本部は中立の立場を堅持する。
双方の主張を吟味し、一方の主張を支持し、または折衷案を提案するものとする。
愛知県連幹部は、仲裁を依頼した以上、J T A本部の裁定を尊重しなければならない。